

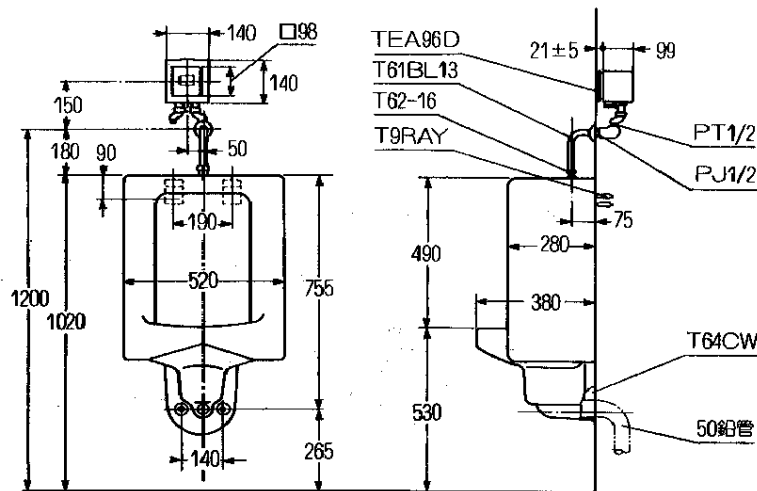
# USシステムA型 感知フラッシュバルブ取付説明書

## TEA95D(在来工法壁用) TEA96D(100×100タイル壁用)

製品の機能が十分発揮されるように、この取付説明書の内容にそって正しく取付けてください。

### ■標準取付け図(U406C+TEA96D)

注) 陶器の品番により取付寸法が異なります。  
詳細は工事用図面を参考の上、取付けてください。



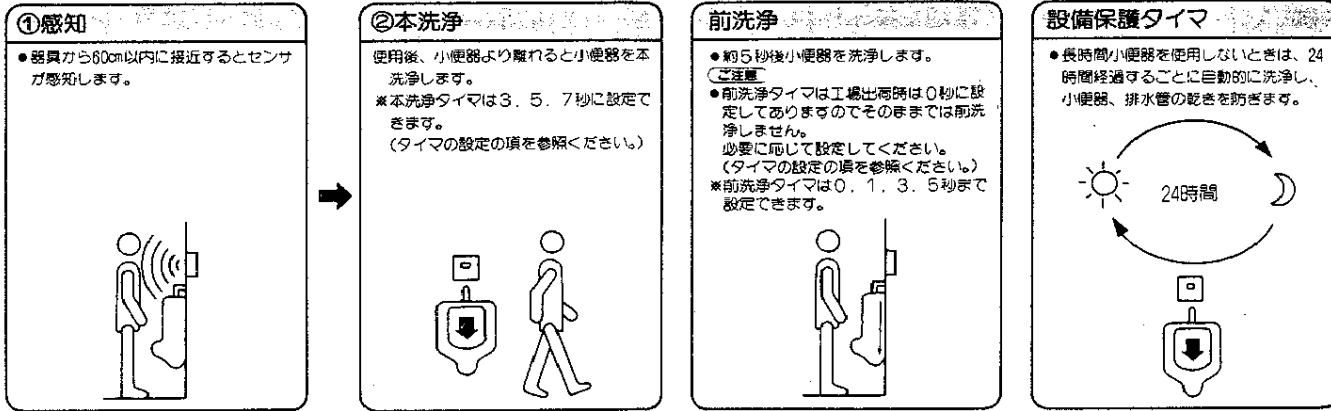
### ■仕様

項目	TEA95D	TEA96D
外形寸	120(縦)×120(横)×5(奥行)	98(縦)×98(横)
電源	DC6V二酸化マンガン・リチウム電池2CR5	
乾電池寿命	月4000回の使用で約5年 (使用乾電池:三洋電機製2CR5)	
感知距離	器具前面より60cm以内	
周囲温度範囲	0~40℃(水温は1~50℃)	
給水部接続	1/2Aガスねじ	
感知時間	5秒間以上(5秒未満では作動しない)	
給水圧力	最低必要水圧0.7kgf/cm <sup>2</sup> 最高水圧7.5kgf/cm <sup>2</sup>	
吐水量	4ℓ/回~5ℓ/回に調節可能	

### ■梱包明細

- フラッシュバルブ部(電磁弁付)..... 1個
- 光電センサ付カバー..... 1個
- 養生カバー付取付板..... 1個
- 脚(給水脚・吐水脚)..... 2個
- 乾電池..... 1個
- AYボルト・アジャスタボルト..... 各4個入
- 吸盤..... 1個

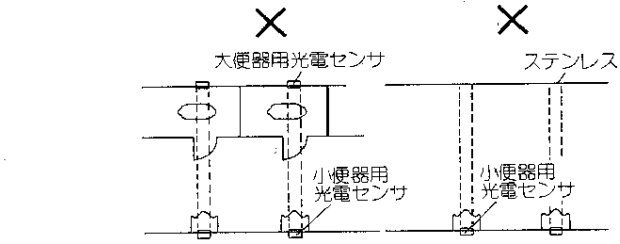
■作動のしくみ このシステムは、衛生的かつ経済的に作動するように設計されています。



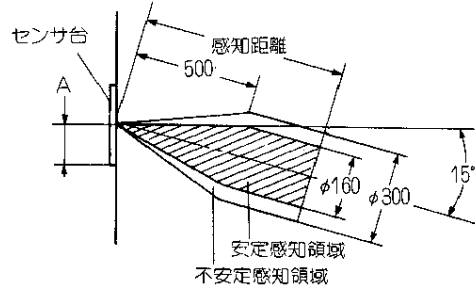
電池寿命保持のため、感知表示ランプ( )はつきませんが故障ではありません。

■取付前に

- 給水圧力範囲は最低必要水圧0.7kgf/cm<sup>2</sup>、最高水圧7.5kgf/cm<sup>2</sup>です。この圧力範囲でご使用ください。
- 給水は上水道に接続してください。中水道および異物を多く含む水には使用できません。
- センサ面は傷つけないよう十分ご注意ください。
- 電気器具ですから、水をかけないように注意してください。
- センサの照射角度及び感知距離は次図のとおりです。なお、小便器の前に手すり等を設置する場合は光電センサの感知領域内(安定感知領域内及び不安定感知領域内)に障害物が入らないように設置してください。また、光電センサ正面の壁がステンレス等反射しやすい場所への設置や、光電センサ同士(大便器自動洗浄システム用光電センサを含む)が対向するような設置は誤動作を生じますので避けてください。



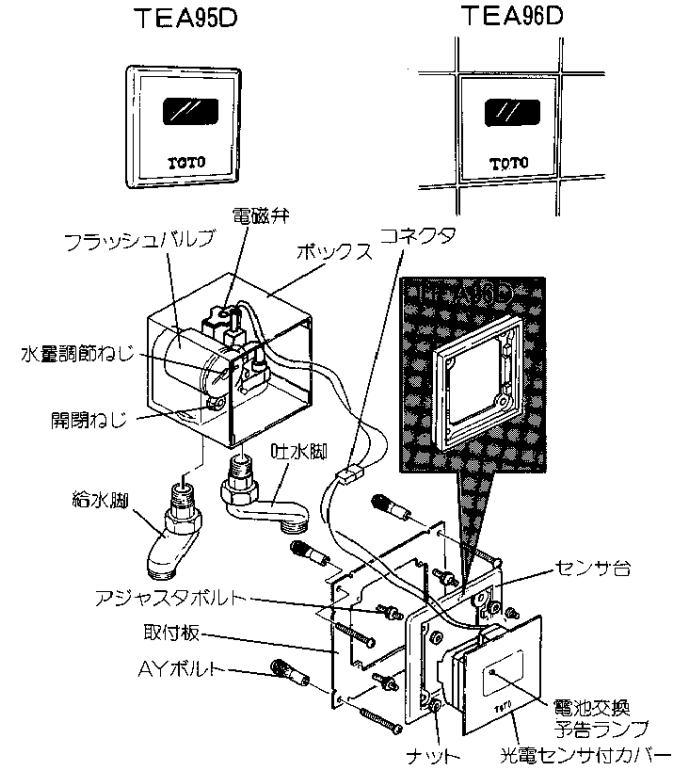
照射角度と感知領域 ※白紙300mm×300mmの場合



品番	A寸法
TEA95D	60
TEA96D	50

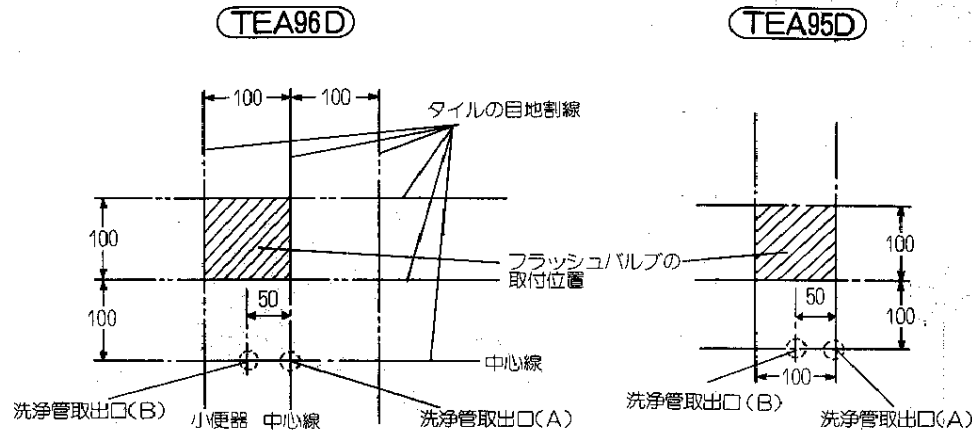
感知距離 800mm  
(工場出荷時に設定)  
照射角度 下向き15°±3°

■各部の名称



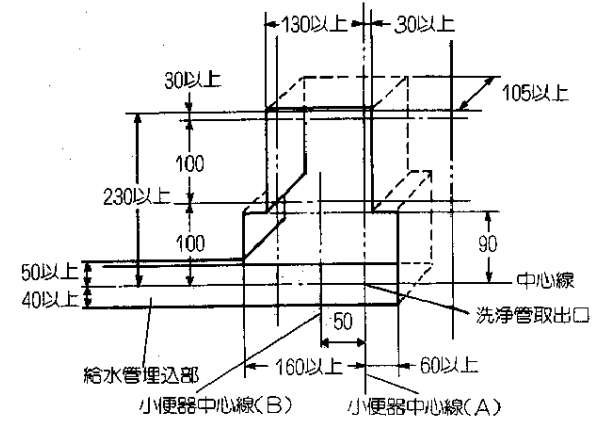
# 1 取付位置の墨出し

下地壁に取付位置を示す中心線を墨出しします。



# 2 下地壁のはつり

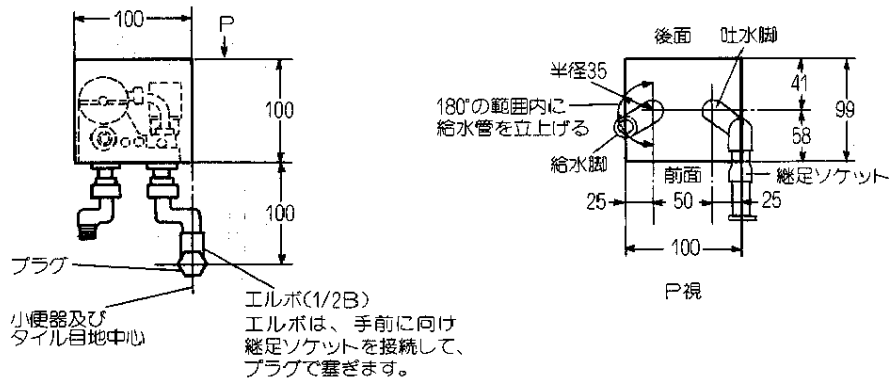
図の寸法に合わせて下地壁をはつります。



# 3 給水・吐水脚の取付け

フラッシュバルブに給水・吐水脚を仮固定します。また、吐水脚にエルボ(1/2B)をねじ込みます。このとき、脚の向きは、給水側は下図のように任意の位置に、吐水側は下図のようにボックスの端に合わせてください。

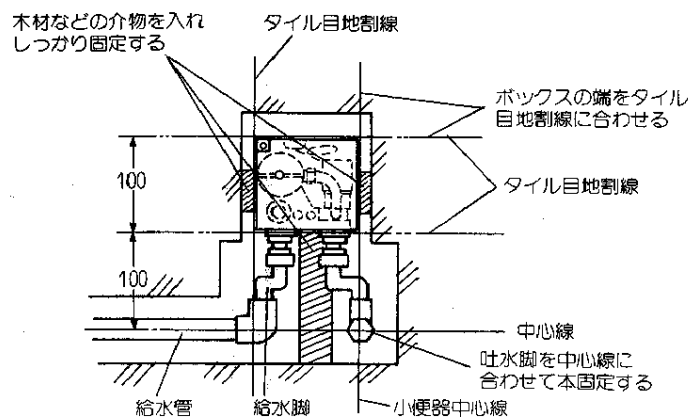
(本図は洗浄管取出口(A)を示す。)



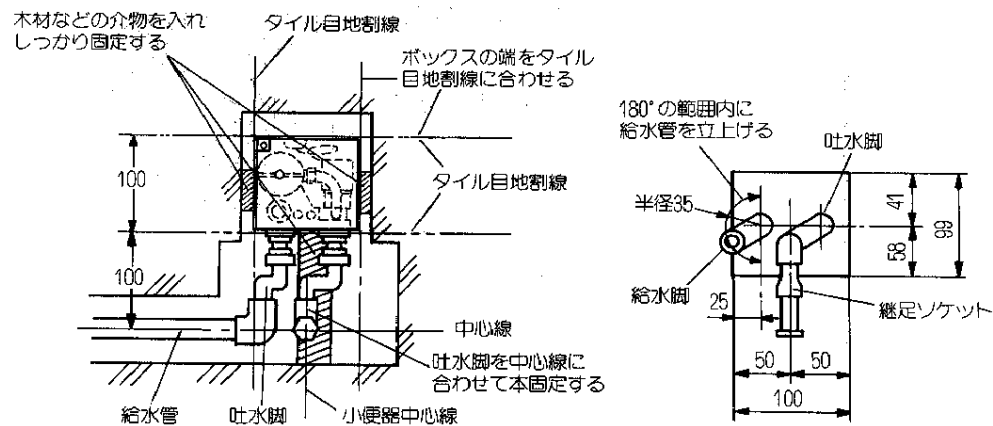
## 4 ボックスの位置合わせ及び給水管の接続

- ①はつた壁に器具を収め、位置合わせを行います。このとき、器具が水平になるように介物を入れてしっかり固定してください。
- ②給水管を配管し、給水管内のゴミ、砂等を完全に洗い流した後、給水脚に接続します。
- ③給水脚を本固定します。

洗浄管取出口(A)の場合



洗浄管取出口(B)の場合

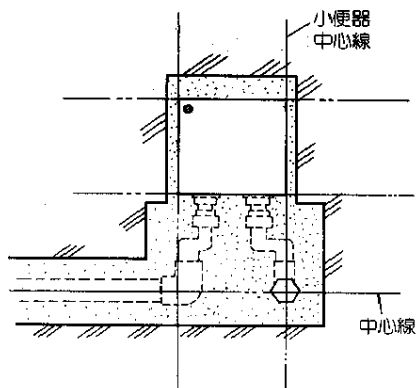


### ご注意

- ボックス端面とタイル目地割線のずれは±5mm以内としてください。  
もし、ボックス端面とタイル目地割線がずれたときは、吐水脚をタイル目地割線に合わせて本固定してください。
- 埋戻し前に必ず埋込配管接続部の漏水がないか確認してください。

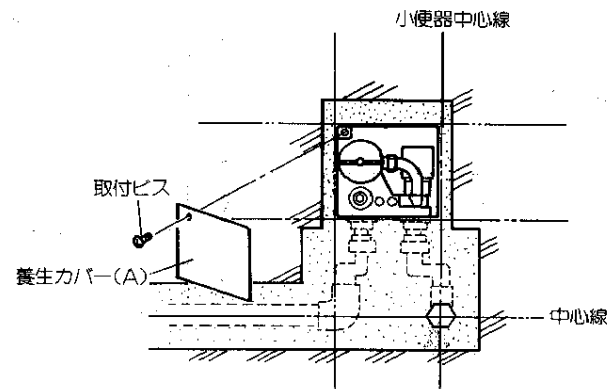
## 5 下地壁の埋戻し

ボックスの周囲をモルタルで埋戻します。



## 6 養生カバーの取外し

養生カバー(A)を取外します。

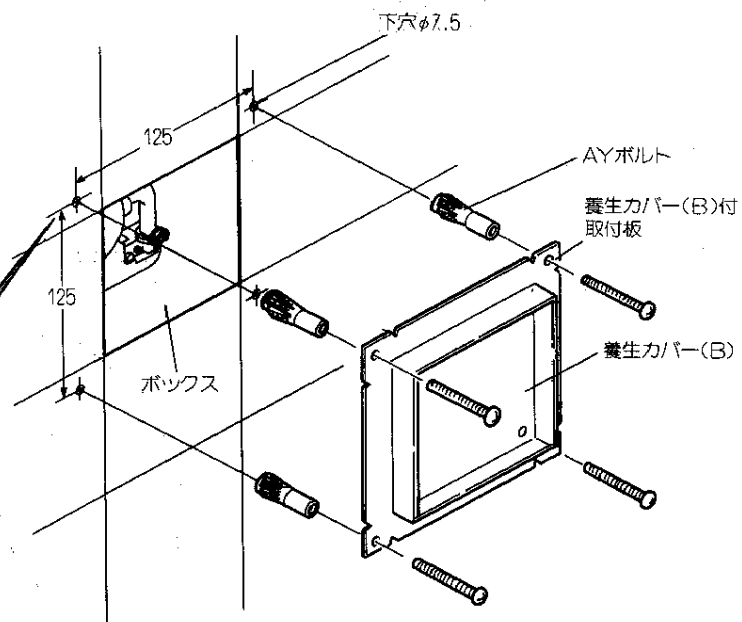


## 7 取付板の固定

養生カバー(B)付の取付板をAYボルト(4本)で下地壁に固定してボックスを覆います。(AYボルトの下穴は $\phi 7.5$ ドリルをご使用ください。)

### ご注意

取付板の取付けが狂うと、タイルが張れなくなったり、光電センサーが取付けられなくなりますので注意してください。

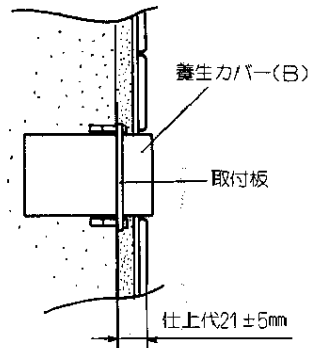


## 8 下塗りモルタル施工・タイル張り・目地詰め

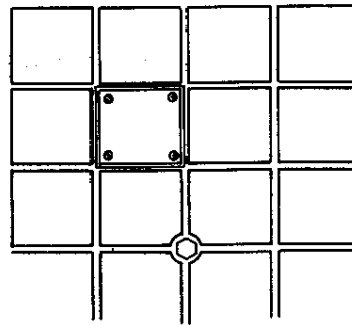
- ①下地壁にモルタルを下塗りします。
- ②養生カバー(B)を付けたまま、タイルを張り、養生カバー(B)の周囲を除いて目地詰めします。  
タイルの水洗いはこの状態で行ってください。

### ご注意

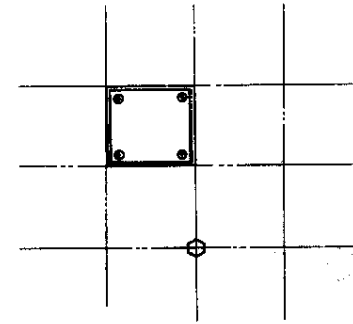
酸洗いは器具を傷めますので行わないでください。



TEA96D

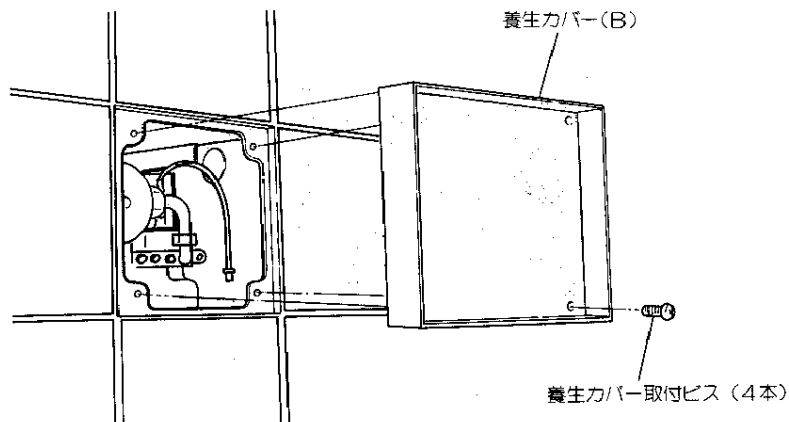


TEA95D



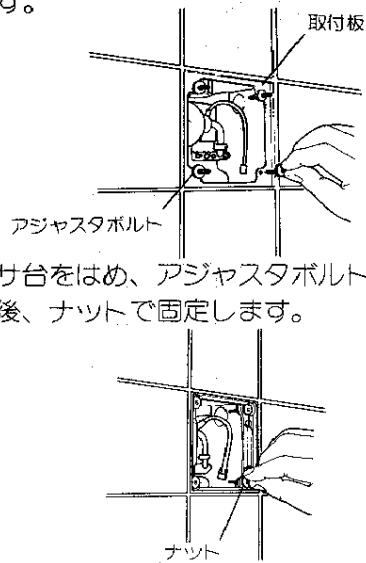
## 9 養生カバーの取外し

取付ビスを外して、養生カバー(B)を壁面から引抜きます。



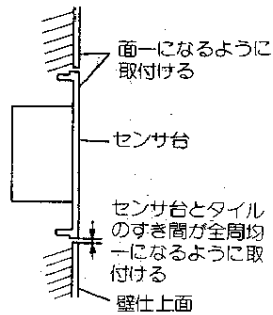
## 10 センサ台の取付け

①取付板にアジャスタボルト(4本)をねじ込みます。

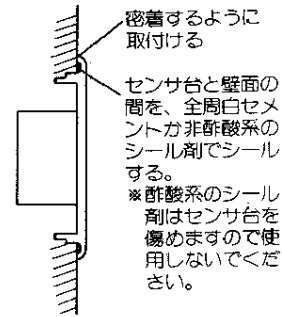


②センサ台をはめ、アジャスタボルトで調節した後、ナットで固定します。

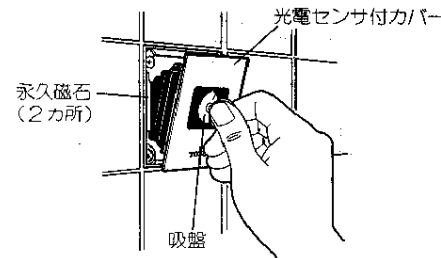
TEA96D



TEA95D

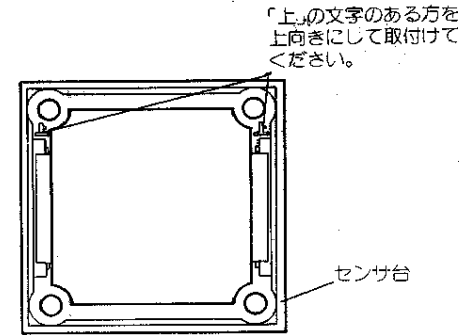


③光电センサ付カバーを永久磁石の部分に吸着させ四隅を押えて、ガタツキがないことを確認します。ガタツキがある場合は、図のように付属の吸盤を使って光电センサ付カバーを外し、アジャスタボルトを調節してください。調節後は、光电センサ付カバーを外してください。



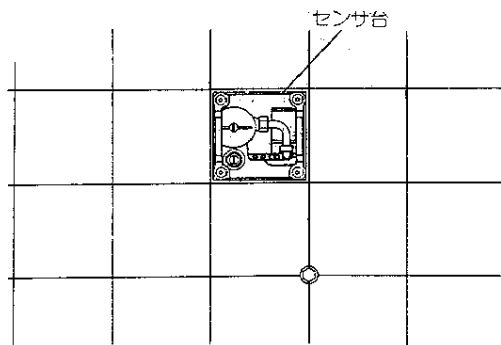
【ご注意】

- センサ台にソリが出ると、光电センサ付カバーがガタついたり、器具を破損したりしますので注意してください。
- センサ台は方向性がありますので、取付けの際は注意してください。



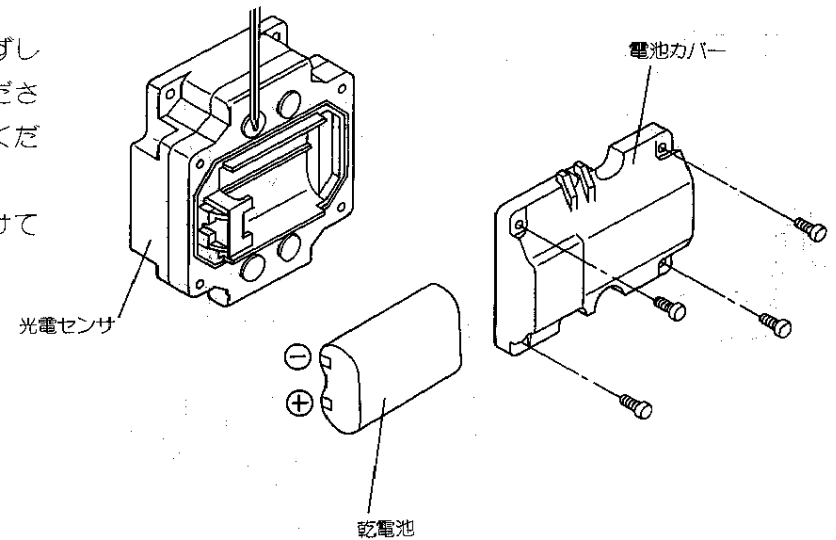
## 11 目地詰め(TEA96Dのみ)

センサ台の周囲を白セメントか非酢酸系のシール剤で目地詰めします。酢酸系のシール剤は、センサ台を傷めますので使用しないでください。



## 12 乾電池の入れ方

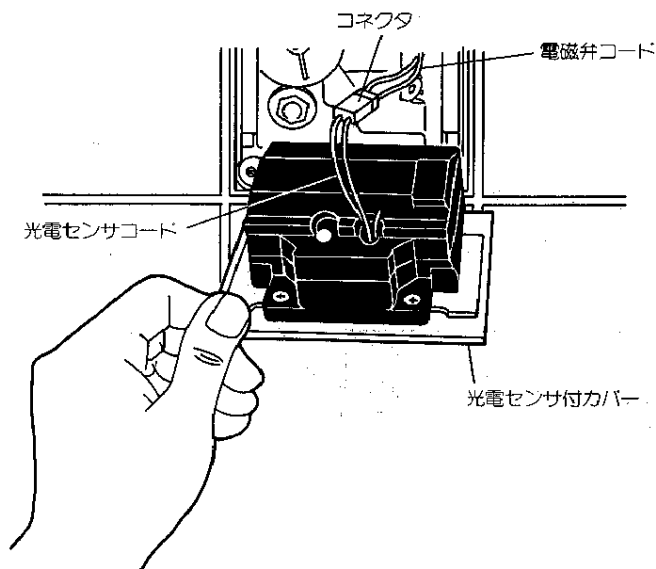
- ①光电センサの電池カバーをはずし図のように乾電池を入れてください。(乾電池の方向に注意してください。)
- ②電池カバーを元どおりに取付けてください。



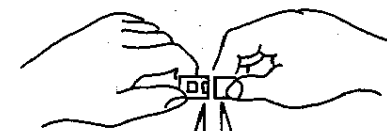
## 13 コネクタの接続

電磁弁コードと光電センサコードの  
コネクタを接続します。

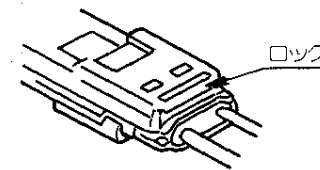
- 調節の際は、光電センサ付カバーを必ず片手で保持してください。
- 万一光電センサ付カバーを落下させますとコードがコネクタから抜けるおそれがありますので、ご注意ください。



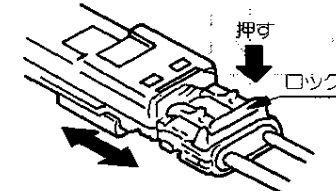
コネクタの抜き差し要領



- コネクタの接続は、ロックがかかるまで確実に差込んでください。

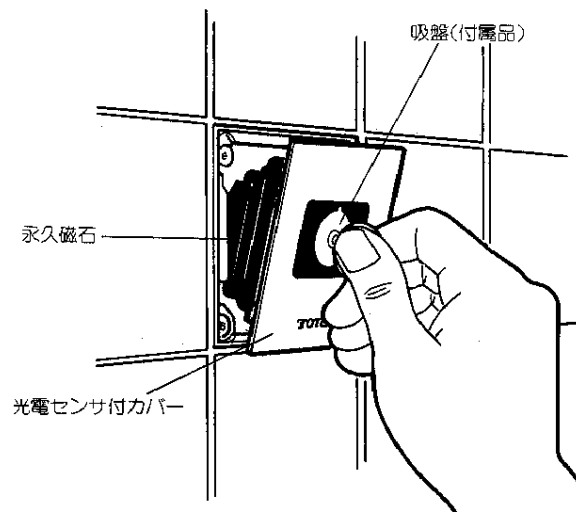


- コネクタをはずすときは、ロックを押下げて引抜きます。



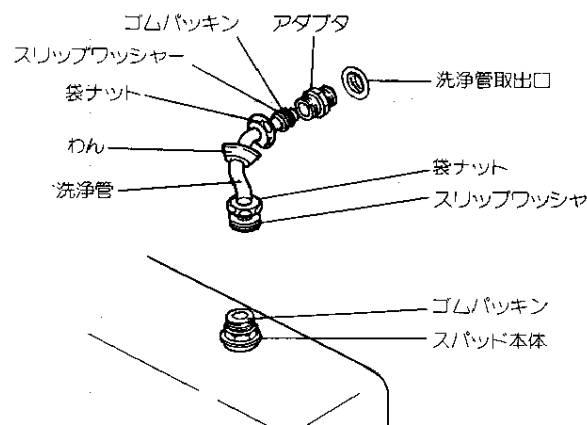
## 14 光電センサ付カバーの取付け

光電センサ付カバーを図のように永久磁石の部分に  
吸着させます。



## 15 洗浄管の取付け

- ①洗浄管取出口のプラグを外し、アダプタをねじ込みます。
- ②アダプタと小便器スパッド間を洗浄管で接続します。



## 16 取付完了後の確認

配線、配管に間違いがないことを確認後、通水、通電し、通常の使用状態（作動のしくみ参照）で作動するかどうか確認します。

又、各部に漏水のないことを確認します。



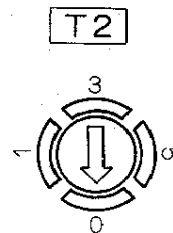
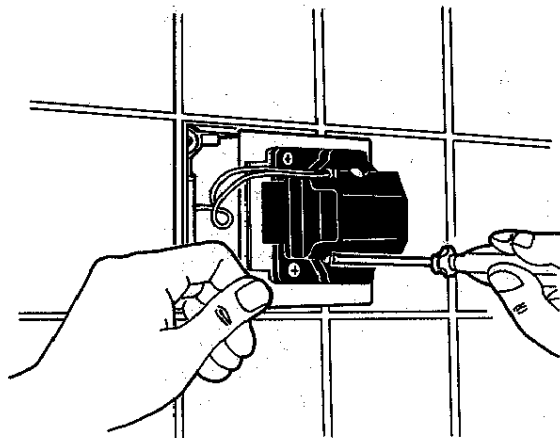
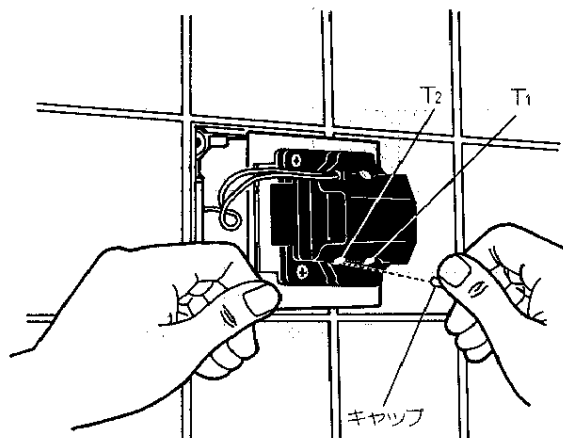
## ●タイマの設定

(タイマは、本洗浄タイマ (T1) を5秒、前洗浄タイマ (T2) を0秒に工場で設定し出荷しております。必要に応じ、次の要領で設定してください。)

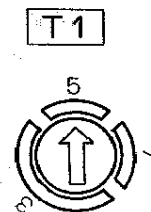
キャップをとり、ドライバーで希望の時間に設定します。

### ●ご注意

この時ドライバーで、タイマに無理な力を加えないでください。



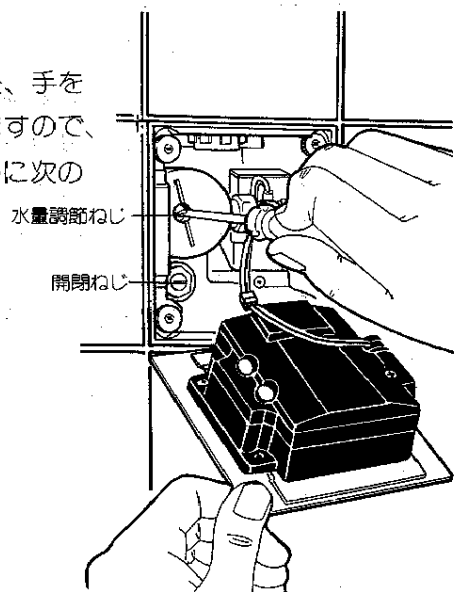
●前洗浄  
タイマ  
0、1、3、5秒  
に設定でき  
ます。



●本洗浄  
タイマ  
3、5、7秒に  
設定できま  
す。

## ●水量・水勢の調節

①センサを手でおおい10秒以上経過後、手を離すとフラッシュバルブが作動しますので、最適な水勢で約10秒間洗浄するように次の調節をしてください。



- 水量調節ねじ  
水量が多いときは右に、少ないときは左に回します。
- 開閉ねじ  
水勢が強いときは右に、弱いときは左に回します。

### ●ご注意

- 調節の際は、光電センサ付カバーを必ず片手で保持してください。万一光電センサ付カバーを落下させますと、コードがコネクタから抜けるおそれがあります。

## ● 感知距離の調節

● 感知距離は工場で調節後出荷しておりますので、通常の調節は不要ですが、万一通常の使用状態で感知しなかったり、対向壁等を感じしてしまうときは、次の要領で調節してください。

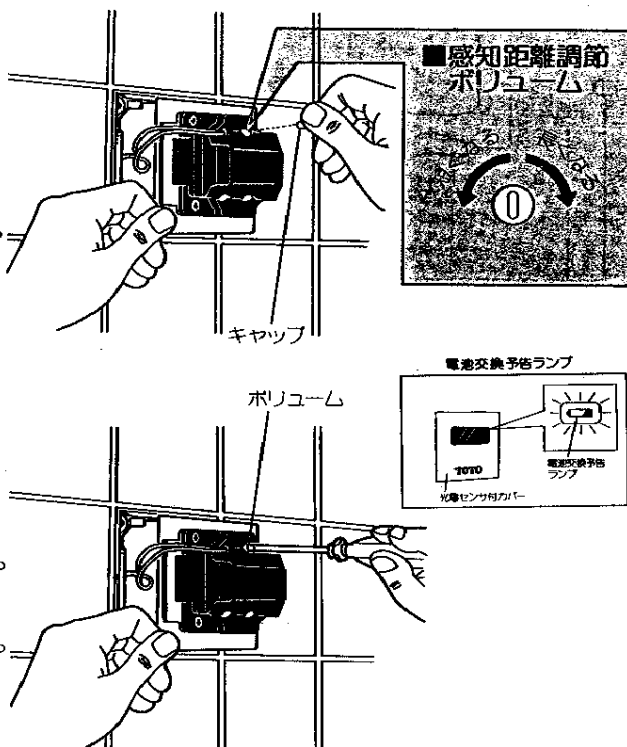
● ポリユームのキャップをとり調節してください。なお、感知時「電池交換予告ランプ」が、電池を入れてから約10分間だけ点灯します。この間感知距離の調節を行ってください。10分間経過後点灯しなくなった場合、再度この動作を行ってください。

① 感知しない場合（「電池交換予告ランプ」が点灯しない）は、ポリユームを右に回します。

② 感知しつばなしの場合（「電池交換予告ランプ」が消灯しない）は、ポリユームを左に回します。

### ご注意

- ポリユームは少しずつ回して調節してください。
- ポリユームに無理な力を加えないでください。
- 感知距離を必要以上長くすると誤動作の原因となりますので、必要最少限度としてください。
- 調節の際は光电センサ付カバーを必ず片手で保持してください。万一光电センサ付カバーを落下させますとコードがコネクタから抜けるおそれがあります。



## ● 電池交換

● 光电センサの乾電池が切れかかってくると、感知するたびに「電池交換予告ランプ」が20回点滅します。また、「電池交換予告ランプ」が点滅をしていない場合にも、機能が停止していれば、電池の交換を行っていただくよう、お客様にご指導ください。

- 交換要領は「乾電池の入れ方」を参照ください。
- 交換要領をお客様へ説明してください。なお交換要領の詳細は「ご愛用のしおり」をご覧ください。

